



## 小中一貫教育だより

学校教育課・教育センター版  
令和2年11月30日 No.21

(小中一貫教育推進だよりから 通算No.92)  
十日町市教育委員会学校教育課



水沢中学校区（左）・中条中学校区（右）いじめ見逃しゼロスクール集会から ※P 9 で説明

## 継続の力・取組の大きな成果

指導主事(非常勤) 島田 敏夫

今年新型コロナウイルスの関係で、社会の様々な取組が中止や新たな対策を取りながら行われています。私事ですが走ることを趣味としている中でも春から参加申し込みをしていたイベントがすべて中止となり、走る意欲が低下しました。ましてや学生が部活動の成果を試す機会である地区・県・全国大会等が軒並み中止になり、そのショックややり切れ無さは、計り知れないものがあるだろうと共感したところです。そんな中、駅伝シーズンに入り中魚・十日町の中学生の大活躍のニュースは、本当にうれしいものでした。これまで、コロナ禍の制限の中、努力を継続してきた成果を発揮したことはとても素晴らしいことですし、元気をもらいました。

さて、2学期に入り、1学期は中止を余儀なくされていた小中一貫教育に関わる中学校区の交流活動もようやく実施できるようになりました。特に、10月・11月は6年生の中学校体験やいじめ見逃しゼロスクール集会・絆集会が行われました。そんな中、いくつかの校区のいじめ見逃しゼロスクール集会・絆集会を視察させていただき、下記のことになりました。

- 集合や移動は整然と行われ、話をする人の方を見て私語なく聞いている。
- 中学生が進行し、小学生も役割を担って参加している。
- 中学生がリードしグループ内での話し合いが行われている。
- 生徒会役員や中学3年生の姿がよい見本になっている。 など

実施計画は、各中学校区の小中学校の先生方が事前に協議・立案し、児童生徒に事前指導が行われている訳ですが、それだけの成果とは思えません。これまで各中学校区で小中一貫教育を進めてきた継続の力・取組の成果です。取組の中で先輩の姿を後輩が見て、学び、憧れ、引き継いできたものと言えます。コロナ禍の中で活動や取組に制限はありますが、だからこそ見えた気がします。各校や教職員の取組に感謝するとともに、引き続き自信をもって取組をお願いします。

## 小中一貫教育より

### 令和2年度 第1回十日町市小中一貫教育及び コミュニティ・スクール推進協議会開催(11月9日(月))

今年度は、上越教育大学大学院の松井千鶴子教授から学識経験者の立場で委員をお願いしました。今回は、共通取組事項「自己有用感を高める取組」の3年目の検証と「コミュニティ・スクール推進の課題」の2つを柱に協議しました。初めに事務局から市の小中一貫教育の取組に関わる3つの課題「学力の向上」「不登校の減少」「特別支援教育の充実」と自己有用感の取組及びコミュニティ・スクールの現状と課題を説明しました。その後、4グループに分かれ上記2つの柱について、成果と課題を協議し下記のような意見がありました。今後、松井教授からの指導と取組評価アンケートの結果等を基に、「自己有用感を高める取組」の3年目の検証を行い、次年度の小中一貫教育実施計画とコミュニティ・スクール推進の方向を検討していきます。



	自己有用感の取組	コミュニティ・スクール
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>居場所・絆づくりがベースとなり、不登校が減っている。学校が落ち着いてきた。</li> <li>縦割りの活動をすることで居場所ができた。</li> <li>自己有用感の取組をすることで学級に居場所がある。</li> <li>小中の交流により、子どもの意識の変化につながり、自己有用感の向上とも関わっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方と意見交流する場を設けている。</li> <li>地域で役割を担っている方を学校に取り入れている。(自治振興会長や公民館長)</li> <li>家庭部会で子どもの一役を決め、夏休みに活動をし、親子の会話が増え、子どもが家の中での役割に気付いた。</li> <li>コミュニティカレンダーに各校の行事を一つにまとめ配布した。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>絆づくりが児童生徒に任せきりになっていないか。(段取り・打合せ・見通しをもたせることが必要)</li> <li>地域と共に自己有用感を高めていく必要がある。</li> <li>地域と学校でそれぞれの役割を意識する。</li> <li>低学年の難しさ、幼・保の段階の大切さから、3歳児前の教育が大切である。</li> <li>学力アップが不登校の減少につながる。</li> <li>地域との連携の中で自己有用感を高めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫とCSの組織を一体化した組織にする。</li> <li>小学校からではなく、もっと小さい時から“地域が子どもを育てる”意識が大切。</li> <li>CS委員を支える組織づくり、地域づくりをし、地域のすそ野が広がるようにする。</li> <li>地域により温度差がある。</li> <li>CSについて便りやHPでもっと周知する必要がある。</li> <li>学校の取組が地域に見えていない。</li> </ul>

### 中学校区いじめ見逃しゼロスクール集会・絆集会

十日町中学校区・中条中学校区(11月11日(水))、吉田中学校区・水沢中学校区(11月13日(金))で開催されました。各中学校区での取組は、授業参観やアイスブレイク活動をした後、集会でいじめやあいさつに関する劇などを代表児童生徒が披露し、それを基に小中学生がグループに分かれ、話し合いました。その後、部活動体験を行う学校もありました。ここでは、集会後に書いた児童生徒の作文を紹介します。児童生徒同士のかかわりやいじめ防止に関する意識が高まったことがうかがえます。

また、地域やコミュニティ・スクールの関係者から参観や話し合いに加わってもらっている校区もあり、小中一貫教育やいじめ見逃しの取組を広める機会となっていました。

- 私は、小中交流活動ですごいなぁと思ったこと、分かったことがあります。一つ目は、中学校には優しい先輩、先生方がたくさんいるということです。中学校に行く前は怖い先輩や先生方ばかりだと思っていたけど中学校に行ったら優しく接してくれる先輩や先生方がたくさんいたので中学校への不安や悩みが少なくなりました。(以下略：小学6年生)

- (略) 絆交流では私は緊張していましたが、中学生や他の小学校の人が優しく接してくれ心がぼかぼかしました。私もその人たちのようになりたいと思いました。これから聞いたら元気になるような挨拶を目指してがんばりたいです。(小学6年生)
- (略) 交流して感じたことは、中学生のみなさんは優しんだなあと思ったことです。私が発表する時に優しく声をかけてくれました。少し声が震えましたが、ゆっくり言えてよかったです。□□小学校の5・6年生の劇も面白かったです。私たちはあんなに感情を入れてセリフを言うなんて無理…。今後の挨拶の目標は元気に大きな声であいさつすることです。目標に向けてがんばりたいです。(小学6年生)
- 今日は6年生との貴重な時間だったけど、自分から話し合いに参加できた。知らなかった人にもコミュニケーションをとって仲良くなれたし、優しく接することができた。小学生が考えたグループ活動の2つはみんな楽しんでできた。中学生の企画は、自分も相手も大切にすることをコミュニケーションが大切なことが分かった。いじめ0のためにこれからもみんなとがんばりたい。(中学1年生)
- 今日の集会では、自分も相手も大切にすることを学びました。普段からCさん(発表の中の3人のうちの一人)でいられるように意識していきたいです。また、活動では2年生をサポートできてよかったです。(中学3年生)

## ■ 田沢小・貝野小学校 統合に向け一日交流授業(11月18日(水))

統合まで残り半年を切った小春日和の中、両校の子どもたちが互いのことを知り、学校生活に慣れることを目的に行われました。2学期に入ってようやく学年ごとの交流を行った上での当日となりました。貝野小学校の児童は、スクールバスに乗って登校するところからの体験でした。保育所時代に共に過ごした仲間であることから、授業では貝野小の子どもたちは大勢の田沢小の仲間の中に入り、抵抗なく授業や活動をしているように感じました。



統合まで残り半年を切った小春日和の中、両校の子どもたちが互いのことを知り、学校生活に慣れることを目的に行われました。2学期に入ってようやく学年ごとの交流を行った上での当日となりました。貝野小学校の児童は、スクールバスに乗って登校するところからの体験でした。保育所時代に共に過ごした仲間であることから、授業では貝野小の子どもたちは大勢の田沢小の仲間の中に入り、抵抗なく授業や活動をしているように感じました。

## ■ 「自己有用感」を高める具体的指導の実践例 募集!

学校全体や学年・学級の取組、個人の実践等 気軽に報告してください。

昨年度は、各校からたくさんの提出をいただきありがとうございました。今年度は、共通取組事項「自己有用感」を高める取組の3年目の成果を検証する上でも活用させていただきます。各中学校区・学校の「居場所づくり」「絆づくり」に関わる取組、担任として気になる児童生徒への個別の対応など自己有用感を高める、引き出す取組の実践例をお待ちしています。成功例だけでなく、課題や難しさを感じた実践でも結構です。9月の校長会でもお示ししてありますが、再度取組と報告をお願いします。

### <連絡事項>

- ・実践例報告書の原簿は次のフォルダにあります。  
職責別>学校間共通>小中一貫教育>共通取組事項>各中学校区フォルダ内  
(ファイル名(例): 道徳の実践\_△中、Aさんへの支援\_0小)
- ・紙面の提出不要。電子データを上記フォルダに置く。
- ・報告期限は、令和3年2月末

### 実践例報告書 ↓

市小中一貫教育共通取組事項  
「自己有用感」を高める具体的指導(支援)の実践例

○○小・中・支援 学校 担当者名: \_\_\_\_\_

1 成果が見えた取組	『 _____ 』 ← 活動前、指導前、支援計画等の名称
○自己有用感を育てる観点から <課題設定>	← 活動前、指導前、支援計画等の中に記載した内容
・	
<居場所づくり>	※「居場所づくり」「絆づくり」「電話・言葉掛け」「課題設定」については、全てではなく取り組んだ項目のみを記入し、その他の、考え上した項目があれば、「その他」として追加してもよい。
<絆づくり> (配慮事項等)	
<電話・言葉掛け>	
○工夫した指導(支援)の具体的内容	← 自己有用感を高めるために工夫したこと
○成果が見えた子どもの具体的姿	← 自己有用感が高まったと思われる具体的姿
2 課題が残った取組	『 _____ 』 ← 活動前、指導前、支援計画等の名称
○自己有用感を育てる観点から <課題設定>	← 活動前、指導前、支援計画等の中に記載した内容
・	
<居場所づくり>	※「居場所づくり」「絆づくり」「電話・言葉掛け」「課題設定」については、全てではなく取り組んだ項目のみを記入し、その他の、考え上した項目があれば、「その他」として追加してもよい。
<絆づくり> (配慮事項等)	
<電話・言葉掛け>	
○課題が残った指導(支援)の具体的内容	← 自己有用感を高める効果がなかったこと
・	
○課題克服のための具体的改善策	← 自己有用感を高めるための改善策
・	

## 教育相談班より

11月13日(金)中越教育事務所において、中越管内指導主事等連絡協議会が開催されました。その会議で、生徒指導、特に「いじめ問題等への対応」について、文部科学省からの伝達事項として以下の指導がありましたので紹介します。

### ■ **いじめ対策について今一度校内で確認、周知、見直しを！**

#### ①いじめの正確な認知の推進

定義 第二条：「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。（いじめ防止対策推進法）

→法のいじめ定義を限定解釈をしてしまうこと（弱い者に対し、継続的に、深刻な…等は限定解釈）で、いじめの認知漏れがある。いじめ定義を限定解釈しないこと。

→いじめはどこでも起こり得る。いじめを見逃さないことが重要。いじめ発見は褒めるべき。

#### ②重大事態の発生報告など法等に基づく措置の徹底

いじめの重大事態についての理解

a. いじめにより…生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認める事態

b. 〃 …相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認める事態

→重大事態が発生した場合「いじめ重大事態の調査に係るガイドライン」「不登校重大事態に係る調査の指針」に沿って調査を確実に実施すること。

→地方公共団体の長への発生報告、調査結果の報告を確実に行う。

#### ③法の理解について

「法を知らない」「法に則した対応がされていない」ことに世間の批判が集中。

→条文を覚えるのではなく、「趣旨」「責務」「背景」の理解を。「いじめ防止対策推進法」「児童虐待防止法」「教育機会均等法」等

→昨年度、「全ての教職員が、いじめに関する法的理解をしている」と回答した学校が8割。それなのにいじめに係る重大事態、解決に長期を要する事案多発。

#### ④いじめ対策の強化に向けて

ア 職員研修の見直し、改善を

・「新潟県いじめ等防止のための資料集」「いじめ対応総合マニュアル(小・中学校編)」の活用

・スクールロイヤー等を活用した職員研修等の実施

→新潟県いじめ対策ポータルホームページからダウンロード マニュアル概要は以下の通り

○ いじめを含む問題行動の事案対処(小中学校編) p2

○ いじめ対応マニュアル・初期対応(小中学校編) p3

○ ○○対応(小中学校編) p4, 5

○ 「第一次判断」後の共通対応(小中学校編) p6

○ 記録用紙(小中学校編) p7, 8, 9, 10, 11

○ 保護者連携チェックリスト(小中学校編) p12, 13, 14, 15, 16, 17

○ いじめに関するアンケート(小中学校編) p18

○ 「学校生活」に関するアンケート調査(第2回7月〇日実施)(小中学校編) p19, 20, 21, 22

○ いじめ発生時の市町村立学校と教育委員会の対応(小中学校編) p23

○ いじめ重大事態発生時の学校における対応(小中学校編) p24

○ 正しい「いじめ」の認知のためのチェックリスト(小中学校編) p25

○ 正しい「いじめ」の認知のためのチェックリスト 解説(小中学校編) p26, 27, 28, 29, 30

→職員研修等の充実によるいじめに係る組織体制強化、実践力向上

イ 『いじめ0』の学校(いじめ認知0)は、児童生徒、保護者に周知徹底を！(毎月)

→「いじめ認知漏れ」を防ぐ関係作りや取組の工夫

## ■ 「正しい「いじめ」の認知のためのチェックリスト」

法的理解の自己点検 (正しい、はい→1 いいえ、正しくない→0)

※「いじめ対応総合マニュアル(小・中学校編)」

No.	質 問	回答欄
1	いじめ防止対策推進法では「いじめとは一方的かつ継続的に行われ、深刻な被害を受けているもの」と定義している。	
2	教職員は、児童生徒からいじめにかかる相談を受けたら、その教職員がすぐに加害と思われる児童生徒に聴き取りを行うなど事実確認を行った上で、いじめ対策組織(いじめ対策推進教員やいじめ担当の教員、管理職等)に報告を行うことになっている。	
3	教職員は、児童生徒からいじめにかかる相談を受けたら、加害と思われる児童生徒に聴き取りなどを行う前に、すぐにいじめ対策組織(いじめ対策推進教員やいじめ担当の教員、管理職等)に報告を行わなければならない。	
4	学校はいじめを行った児童生徒について、いじめを受けた児童生徒が使用する教室以外の場所において学習を行わせる等、いじめを受けた生徒が安心して教育を受けるための措置を講ずることができる。	
5	学校はいじめが犯罪行為として取り扱われるべきものであっても、逮捕される可能性がない場合は加害となった生徒を守るために、警察署に情報提供するなど連携する必要はない。	
6	学校が重大事態ではないと判断していても、保護者から重大事態であるとの申し立てがあった場合は、重大事態にかかわる事実関係を明確にするための調査(第三者委員会による調査など)を行わなければならない。	
7	いじめを受けた児童生徒が、いじめを理由に学校に登校できない状態が一定期間続いた場合、いじめの重大事態となる。	
8	子どもというのは、いじめたり、いじめられたりしながら成長していくものだと思う。	
9	いじめを起きないようにという点からも、「分かる授業」を進めることが大切である。	

※ 正解及び解説は総合マニュアルに記載されています。確認願います。

## ■ 新型コロナウイルス感染症にかかわる

### 「いじめ・差別防止」と「児童生徒等の心のケア」のお願い

新型コロナウイルス感染症が拡大傾向にあり、新潟県内でも児童生徒等を含めた学校関係者への感染が確認され、今後、感染の拡大が心配される状況となりました。

つきましては、下記の事項を参考に児童生徒への指導及び保護者への啓発をお願いします。

#### 1 いじめや差別の防止について

児童生徒が濃厚接触者である場合のいじめや差別も心配です。

- ・ 改めて、感染者や濃厚接触者及びその家族に対する差別、いじめが起こらないよう児童生徒の発達段階に応じた予防的指導を充実すること。
- ・ 感染者または濃厚接触者となった児童生徒、及びその家族等に関するプライバシーを明らかにする行為やSNS等への書き込み等がないように指導すること。
- ・ 添付した感染予防普及啓発チラシを児童生徒に配付の上、内容について児童生徒や保護者に周知すること。

## 2 児童生徒の心のケアについて

- ・ 児童生徒本人、家族、友だち等が感染した場合や、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い精神的に不安定になっている児童生徒の実態を教育相談等で把握するとともに、各学校における教育相談体制の充実を図ること。
- ・ 状況に応じてスクールカウンセラーとの面談の場を設けることができるよう、体制を整えること。
- ・ 不登校傾向にある児童生徒、精神的に不安定にあるハイリスクな児童生徒に対し、冬季休業中の状況を確実に把握するとともに、必要なケアを組織的に行うこと。

(R2. 11. 19 県教育庁生徒指導課より通知)

## 学習指導班より

### エキスパート教員研修 中条小(10/20(火))・下条中(11/4(水))

10月20日(火)に中条小学校の吉田真也教諭による情報教育の2回目の授業提案、11月4日(水)に下条中学校の池田繁人教諭による数学の授業提案がありました。

中条小の吉田教諭からは、GIGAスクール構想に伴って一人に1台ずつタブレット型PC端末が配備されることを踏まえ、授業支援・思考ツール「ロイロノート」を使っての社会科の授業が公開されました。子どもたちは既にタブレットPCはもちろんのこと、ロイロノートもスムーズに操作できており、即時に学級全員の考えなどが可視化されることを生かした学習に取り組んでいました。授業後は、参加者もロイロノートを実際に使用し、その効果を実感することができました。

下条中の池田教諭からは、3年数学「いろいろな関数」の単元で、身近な題材をもとに問題を構成して進める学習の提案がありました。階段状のグラフを読み取り、既習事項を利用してグループで相談しながら問題を解き、生徒が互いに考えをかかわらせながら解決していく姿から、対話的な学びについて考えることができました。協議会では、郡市教振の算数・数学部の研修会も兼ね、小中一貫教育の視点から、算数と数学の接続を無理なくスムーズに行うための効果的な指導について協議しました。

両教諭とも、十日町市の教育実践をリードする存在です。今後も、興味のある方は積極的にお二人に問い合わせたり、助言を求めたりしながら日々の授業改善に取り組んでいきましょう。



## ■ 学級経営研修会(10月22日(木))

市教育センターの今年度新規事業である「学級経営支援事業」の一環として、10月22日(木)に魚沼市教育委員会政策監の伊佐 貢一様を講師に招き、研修会を行いました。伊佐講師は、魚沼市で「温かい学級づくり支援事業」を中核となって進めて来られた方です。

「全校体制で取り組む学級づくり」の内容で、親和的な学級集団づくりを目指し、それを基盤とすることで「学習意欲の向上→学力の向上」「新たな不登校を生まない→不登校発生率の低下」を目指した取組の紹介がありました。すべての子にリーダーとして活躍する場・経験を与えることや全員参加の授業などについても示唆をいただきました。

また、年度初めに学級を開いたら、年度末にはきちんと学級を「仕舞う」というお話がありました。これは、故大村はま先生の言葉にも通ずるものです。



### 【大村はま 「灯し続けることば」小学館 2004 より】

#### 「教師は、渡し守のようなものでしょう」

卒業生がいつまでも遊びに来て、先生、先生と慕ってくれるのがうれしいという方があります。もちろん、そうでしょう。

でも私は、子どもが卒業していったら、私のことは全部忘れて、新しい学校、新しい友達に慣れて、新しい自分の世界を開いて行ってほしいと思います。

教師は、渡し守のようなものだから、向こう岸へ渡した子どもたちにはさっさと歩いて行ってほしいのです。そして、私はまた元の岸へ戻って、次のお客さんを乗せてこぎ出すのです。「どうぞ新しい世界で、新しい友人と、新しい先生について、自分の道を開拓して行って」と思いつつ、子どもを見送っています。

今年度も残すところ、あと4か月あまり。きちんと「今年度の学び」をやり遂げ、次の学年につないでいけるよう、WEBQUの結果等も活用しながら指導をお願いいたします。

### 【参加者のアンケートより】

- 改めて、学級経営の大切さ、学級を支える学校全体の基盤づくりの大切さが分かった。よい学級、よい学校づくりをしようという意欲が高まった。
- 予見・遂行・省察の流れの中で、省察を客観的に検討するためにQUは有効だと思いました。親和的な学級と学力の関係は、何となく感じていたが、やはりと思えるような理論を教えていただき、とてもよかった。
- 自分のことを言われているようで、反省することが多かったし、そのとおりだと感じることも多かった。特に、人間関係の固定化が強く、なかなか崩していくことが難しいと感じている。それによりうまくいかないことがあるので、しっかり「予見→遂行→省察」する力を付け、未然に防げることは防げるようにしていきたいと思った。
- 学級づくりの見直しを確認する、大切な機会となった。2学期になり、行事に忙しかったことだけでなく、1学期のように学級を振り返る機会を学級で設けていなかったことに気付けた。今、学級の力の伸びに停滞を感じていたので、子どもとともに学級を振り返り、2学期後半の新たなスタートにしたいと思う。

## ■ 教師の指導言動を振り返る(学力向上計画訪問から)

11月は、中学校区ごとの「学力向上計画訪問」ラッシュです。各中学校区でいろいろな教科で公開授業がありました。

昨年度の本紙面で、以下のようなことをお伝えしました。

(前略)中には、「子どもたちが主体的に学習しているように見えて、実は『教師が用意しておいたゴール』に誘導着陸させられているだけ」という授業もあるのではないのでしょうか。教師の思い描いていた姿と異なる姿が現れたときこそが、教師の発問や指示、場面設定、教材・教具、環境整備などを見つめ直すチャンス!です。そして、それが教師の指導力向上につながり、児童生徒の学力向上へとつながります。

今年度訪問した学校では、「発表する意欲が低い。」「説明する力が弱い。」「間違えることに強く不安を感じている。」などの声を聞きました。その要因は、いったい何でしょうか。そのような学校では、「話し方の型を身に付けさせ、自信をもたせる」などの方策に取り組んでいるところも多いようです。

しかし、要因はそれだけでしょうか。例えば、以下のようなことは考えられませんか?

- 「発表してよかった」という経験(→ 周りから承認・称賛される経験)が少ない。
- 「〇〇さんの間違いのおかげで、学級全体の学びが深まった」という経験が少ない。  
≡ 自分が困っている(分からない・できないでいる)ことを周りに知られたくないため、自分の作業状態を隠したり、そもそも取り組まなかったりする。
- 上手に(流れるように理路整然と)説明できないといけないという先入観・固定観念をもってしまっている。
- 黙っていても不利益を被ることがない。(黙っている方がラク。)
- 誰かが発表した際に、からかいや失笑が起こることがあるが、それがとがめられていない。
- 特定の子どもにだけに、教師が注意したり、寄り添ったりする傾向があり、(あの人はダメな人なんだ。あの人のようになりたくない。)と周囲の子どもが無意識・無自覚的に思ってしまう。 ≡ 特定の子どもに発言機会が偏る傾向があり、(どうせまた〇〇さんが発言するでしょ。)という雰囲気がある。  
(=教師のマイナスの指導言動「ヒドゥン(隠れた)・カリキュラム」の一つ)
- 1つの授業で、教師が話している時間が長く、子どもが話す機会が少ない。
- 発言する子ども「どうですか?」→他の子ども「いいです。」というやり取り → 全員から一斉に「違いませす。」と指摘される恐れがある。
- 授業プラン通りに進めたい思いがあり、事前に想定していた考えや反応だけを取り上げ、その他は取り上げない。(スルー。)



この他にも、教師が知らず知らずのうちに子どもにマイナスの影響を与えていることがしばしばあります。ぜひ、以下の参考文献などで、自己点検や校内での相互点検を試みることをオススメします。

○「ヒドゥンカリキュラム入門～学級崩壊を防ぐ見えない教育力」著：多賀一郎 明治図書

○「その指導、学級崩壊の原因です!「かくれたカリキュラム」発見・改善ガイド」著：横藤雅人、武藤久慶 明治図書

○「特別支援を要する子の担任として、絶対にやってはいけないNG指導、NG対応」編著：甲本卓司、大恵信昭、TOSS岡山サークル MAK 明治図書

## 学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～12・1月～

日 程	内 容 【会場】	備 考
12月3日(木) 14:00～16:30	小学校学習指導研修会(理科) 【水沢小】	講師：松代中学校 教頭 八重沢 央 様 対象：小学校教員
12月3日(木) 14:00～16:30	算数・数学科担当者会議 【千手コミセン】	対象：算数・数学科担当者
12月4日(金) 14:30～16:30	保幼小連携職員研修会 【千手コミセン】	対象：保・幼・小職員 他
12月25日(金) 14:00～16:30	第5回特別支援教育研修講座 【千手コミセン】	講師：ふれあいの丘支援学校 校長 小網 輝夫 様 対象：教育支援員、教職員
1月20日(水) 14:00～16:30	第6回特別支援教育研修講座 【千手コミセン】	講師：ふれあいの丘支援学校 教頭 山田 聡 様 対象：特別支援教育担当者
12月	外国語活動サポート訪問 水沢小：12/2(水)	橘 小：12/9(水)

### 【表紙写真の説明】

水沢中学校区では、コミュニティ・スクール関係者もグループに入り、年間の取組である「あいさつをよくすること」をテーマに、話し合いが行われていました。

中条中学校区では、生徒会総務の劇や説明に基づき、「SNSトラブル」や「コロナいじめ」についてグループでの意見交換が行われていました。

両中学校区とも具体的な内容について話し合いが行われ、中学生のリーダーが中心となりボードや大洋紙に仲間の意見をうまくまとめていることや発表時には指示がなくても発表者にさっと体を向け静かに聴く姿勢に感心しました。こうしたことは、この集会だけではなく日ごろの授業や活動、小中一貫教育による取組の継続の成果であると感じました。

### 【お願い】

12月には、「小中一貫教育組評価アンケート(児童生徒、保護者、教職員)」と「児童生徒の自己有用感を高める取組に関する教職員アンケート」が行われます。学期末の忙しい時期ですが、ご協力をお願いします。

